



第311号
 編集責任 筑波大学新聞
 編集代表 福原直樹
 TEL: 029(853)2040・6699
 E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
 月刊
発行所 筑波大学
 茨城県つくば市天王台1-1-1

紙面から

学内循環バス	定期料金2倍に	2
記者の声	不審者がいない環境を	3
T・H・K筑波放送協会	最優秀賞を受賞	4
柔道	永瀬グランドスラム優勝	6
剣道	2年ぶりの優勝果たす	6
ライフスタイルデザイン講義	四角大輔さん講演	7

5
 これからの大学が変わる?
MOOC特集

おことわり
 今月号は8面構成で発行しました

基準満たしても実現せず

学生約8000人総額3.3億円

授業料免除

筑波大学で昨年度授業料の全額免除の基準を満たした学生約18000人のうち、半額免除しか受けられなかった学生が約8000人おり、その総額が約3.3億円に上ることが大学関係者への取材で分かった。国の予算不足が大きな原因で、昨年度の場合、半額免除の基準を満たしながら、3分の1免除になった学生もいる。このような状況は長年にわたり続いているとみられ、大学関係者は「予算は限られており、なるべく多くの学生の授業料を免除するための方策だった」と話している。(森脇慎二社会学類1年、原啓一郎同3年、2面に関連記事)

「国からの予算不足」

国立大学の授業料免除制(厳しく授業料の納付が困難な学生が対象で、文部省による)は、家庭の経済状況が「国からの予算不足」が原因で、文科省によると1949年から行われている。筑波大の場合、全額免除約18000人が全額、約6000人が半額の免除基準を満たしているという。

一方、国立大の授業料免除のための予算は文科省が決められており、筑波大の場合、昨年度は約8.5億円が国から支払われた。だが、このまま授業料を免除すると、合計で約11.8億円が必要となり、約3.3億円の不足。このため昨年度の場合、全額免除基準を満たした学生約8000人を半額免除にした他、半額免除基準を満たした一部を3分の1免除としていた。免除額の決定では、家庭の経済状況が厳しい学生を優先したという。

関東圏の2国立大に聞いたら、やはり授業料免除のための予算が不足。例えばまず先に、授業料免除基準を満たした学生全員を半額免除にし、その上で、予算に余裕がある場合は、免除額の決定では、家庭の経済状況が厳しい学生から順に、全額免除に繰り上げる方策を取っている大学もある。国や大学は、形骸化した免除基準を見直す時期に来ている。

企業は、同センターに研究内容を説明する申請書を提出、審査で承認されれば、試料や情報を手に入れる。薬には人間にしか起こらない副作用があるため、製薬などの研究ではマウスなどの実験動物ではなく、人間の試料を使うことが望ましいとされる。また、試料と共に保存される患者情報を使えば、治療法や薬を個人の体質に合わせた「オーダーメイド治療」確立のための研究に役立てることもできるという。

同センター長の大河内信弘教授(医学医系)によると、製薬会社や化粧品会社からの問い合わせがあるという。同教授は「今後は

国内大初 非営利のバイオバンク設立

筑波大学附属病院



専用容器に保存されている「試料」

新たな治療法や薬の開発へ

手術や検査で採取しなかった患者の臓器・血液などの「試料」や、患者の病歴の情報を各機関に提供し、将来の研究に役立てる「つくばヒト組織バイオバンクセンター」が11月1日、筑波大学附属病院に設立された。保存費などの実費を支払うだけで試料や情報を利用できる日本の大学で初の施設で、新たな治療法や、医薬品の開発などに貢献する取り組みとして注目される。

これまで同様の「バイオバンク」は国内にあったが、利用手続きが煩雑だったという難点があった。そこで同病院は2009年から、非営利での組織づくりをスタート。保存費用などの実費を支払えば試料を提供できるという。一方、試料の用途を審査する倫理委員会の設置などで、試料を用いた研究が科学的に適正かチェックする仕組みも作り上げた。

同病院では、集めた試料を数、四方の単位で専用容器に入れ、地下で冷凍保存する。また匿名化した患者の病名や治療・投薬内容などの情報は病院内で厳重に管理する。09年から試料収集が始まっており、現在約2万点が保管されている。試料を使いたい研究機関や

海外への提供も視野に入れている。試料の提供が優れた研究につながってほしいと話している。(井口彩社会学類1年)



つくばセンターにイルミネーションがともった。道行く人々は白い息を吐きながら、木々を彩る光のショーを見上げる。幻想的な輝きに、ほんの少し心が温まった気がした。(撮影・パク・ジョンヒョク=物理学類3年)

つくば歳時記

言葉には世の中を動かす、大きな力がある。新聞部の活動でそのことをひしひしと実感した▼今年4月、筑波大学の研究者の業績について記事を書いた時、他大学の研究者の目に留まり、最終的に両者の共同研究に発展した。「あなたが記事を書かなかったら、共同研究は始まらなかった。記者としての喜びを噛み締めた▼だが、言葉の力がマイナス方向に働けば、時に大きな破壊力を持つ。今年2月、コリアンタウンがある新大久保で、在日韓国人や朝鮮人に「日本から出て行け」と叫ぶデモがあった。ぶつつけられるヘイトスピーチ(憎悪表現)の数々。罵詈雑言を浴びせられた人々ほどに苦しいことか▼仏教には「誹謗」という教えがある。言葉は人の心に突き刺さり、深い傷を負わせる。そればかりではなく、時には人の命を奪うこともある。だから言葉には気をつけよ、という教えだ▼身体の傷はいつか消えるが、心の傷はいつまでも消えない。自分の不用意な言葉が、これまでとれただけの人を傷つけてしまったのだから、どうかと思つた▼これから就職活動が始まり、ゆくゆくは社会人の仲間入りをする。そこでは、これまで以上にたくさんの人々との出会いが待っている。コミュニケーション能力が試される場面が、何度も訪れることだろう。言葉の力を、決して忘れてはいけない。

筑協「暗いつくば」改善に自主活動

同協議会は2004年設立。筑波大の他、同市や産業技術総合研究所、国土地理院など同市周辺の団体が参加。「環境」「労働衛生」「普及・情報」などの委員会に分かれ、筑波研究学園都市の国際性を生かしたより良い都市づくりを目指して活動を行っている。



「国際化推進専門委員会」の樋口洋さん(64)によると、同委は3年前から「暗いつくば」を問題視。実態調査を始めた。その結果、電柱の無い中心地区や各大通り沿いでは電気が引けず街灯設置が進まない他、県道では「基本的に県は交差点にしか街灯を設置しない方針だ」(茨城県道路維持課)などの理由で設置が進まないことも分かった。

県に要望 設置進まず

このため同委では、「協議会の各機関も協力しないと街灯はつけない」と判断。「できることから始めよう」と街灯が無い大通り沿いに不安を感じ、改善を求める声も多い。地道に危険箇所を無くしていきたいと話している。一方で同市役所の危機管理課と道路課は「電柱が無い道では、電気を引くことができません街灯設置は難しい。何らかの対応は必要だが、一つの課だけで対応できない」としている。

筑波大学周辺の街灯が整備されていない問題で、つくば市の研究施設や学校、企業の交流促進を目的とする「筑波研究学園都市交流協議会(筑協)」(つくば市、加盟98団体)が2年前から、加盟団体に街灯設置を提案するなどし、歩道を明るくする取り組みを続けていることが分かった。同協議会は茨城県などに街灯設置を働きかけたが設置が進まず「暗いつくば」が問題として自主活動を行っている。筑波大周辺では今年、夜暗い道で女子大生を狙う路上わいせつ事件が昨年の2倍に急増。つくば中央署が注意を喚起していた。(平嶋健人社会学類2年)

ある各団体に①施設内の外周近くに街灯を設ける②歩道側の樹木を伐採する……などで、歩道を明るくすることを提案した。この結果、これまでに複数の団体が街灯が設置され、樹木が伐採されるなど、対策が実施された。今後とも行政や各団体と協議を重ねながら、より安全な夜道を目指す方針だ。

樋口さんは「外国人研究者や留学生は自家用車を持っていない場合が多く、頻りに夜道を歩く機会がある。暗いつくばに不安を感じ、改善を求める声も多い。地道に危険箇所を無くしていきたい」と話している。一方で同市役所の危機管理課と道路課は「電柱が無い道では、電気を引くことができません街灯設置は難しい。何らかの対応は必要だが、一つの課だけで対応できない」としている。

言葉には世の中を動かす、大きな力がある。新聞部の活動でそのことをひしひしと実感した▼今年4月、筑波大学の研究者の業績について記事を書いた時、他大学の研究者の目に留まり、最終的に両者の共同研究に発展した。「あなたが記事を書かなかったら、共同研究は始まらなかった。記者としての喜びを噛み締めた▼だが、言葉の力がマイナス方向に働けば、時に大きな破壊力を持つ。今年2月、コリアンタウンがある新大久保で、在日韓国人や朝鮮人に「日本から出て行け」と叫ぶデモがあった。ぶつつけられるヘイトスピーチ(憎悪表現)の数々。罵詈雑言を浴びせられた人々ほどに苦しいことか▼仏教には「誹謗」という教えがある。言葉は人の心に突き刺さり、深い傷を負わせる。そればかりではなく、時には人の命を奪うこともある。だから言葉には気をつけよ、という教えだ▼身体の傷はいつか消えるが、心の傷はいつまでも消えない。自分の不用意な言葉が、これまでとれただけの人を傷つけてしまったのだから、どうかと思つた▼これから就職活動が始まり、ゆくゆくは社会人の仲間入りをする。そこでは、これまで以上にたくさんの人々との出会いが待っている。コミュニケーション能力が試される場面が、何度も訪れることだろう。言葉の力を、決して忘れてはいけない。

バス定期料金2倍に

授業料免除の予算に補てん

筑波大学筑波キャンパス内を走行する関東鉄道路線バスの定期券の学生利用料が、来年度から年間4200円から8400円に値上がりすることが、大学への取材で分かった。これまで大学が半額負担していたものを学生の全額負担に切り替え、その分を筑波大独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」や授業料免除のための予算などに補てんする方針だ。



定期券は2005年に販売を開始。大学の負担額は年間約3000万円、販売開始から今年度までの負担額は合計で約2億円に上る。その一方で、国が全国の国立大学の経営を補助するために支払う運営費交付金の同期間の合計額は、筑波大で約13・9億円が削減されており、年間約3000万円の支出も負担

となっていた。そのため筑波大は、定期券に関する大学負担をやめ、これを「つくばスカラシップ」などに充てることを決定。同スカラシップは09年に始まった筑波大独自の奨学金制度で、主に外国人留学生と海外へ留学する日本人学生に、月額6万10万円の支援を行う。筑波大は、世界に通用する能力を持つ学生を育成するために、この奨学金を充てることができる学生を増やしたいと考えている。

計算科学研究センター

スパコンの性能向上 電力効率で世界3位に



性能が向上したスパコン「HA-PACS」

計算科学研究センターは11月1日、昨年導入したスーパーコンピュータ「HA-PACS」に最新の計算機64台を増設し、計算速度を従来の1・5倍に向上させたと発表した。省電力化も実現し、同月21日に発表されたスパコンの電力効率を競う世界ランキング

「グリーン500」では3位入賞を果たした。HA-PACSは昨年2月に運用が開始されたスパコンで、3022台(増設分64台を含む)の高性能計算機で構成される。計算機同士で仕事を分け合うことで、複雑な計算ができるため、宇宙誕生のシミュレーションを行う宇宙物理学の研究など多くの分野で活用される見込みだ。増設された計算機には、米国の半導体メーカー「エヌビディア」の最新の演算処理装置(GPU)が搭載されており、従来と同じ消費電力で約2倍の計算性能が得られる。また、同センターで独自開発した通信システムが導入され、計算機同士の通信時間はこれまでの3分の1に短縮された。

開発担当者で副センター長の朴泰祐教授(シス情報系)は「計算速度と通信速度が速くなれば、より高精度なシミュレーションができる。高性能になったスパコンを学内外で、より多くの研究に役立ててもらいたい」と語った。

世界糖尿病デー 啓発イベント開催 糖尿病の知識広める

談コーナーが設けられ、高齢者を中心に約200人が訪れた。来場者のうち175人が機器を使った検査を受け、糖尿病の疑いがあると診断されたのは10人だった。来場した女性は「診療で病院にきたが、イベントの開催を知って指先検査を受けた。糖尿病の疑いは無いという結果を聞いて安心できた」と話した。イベント代表者の矢作直也准教授(医学医療系)は「糖尿病は初期段階では自覚症状が無いことが多く、検査をしなければ分からない。このイベントで糖尿病についての知識が広まればうれしい」と話した。

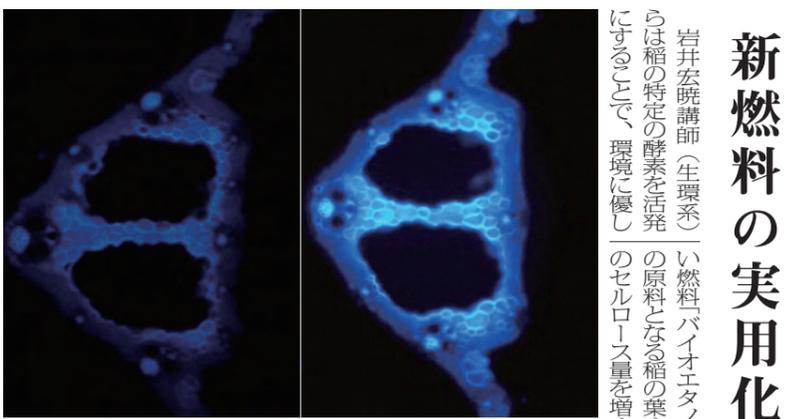
新種のトマトを開発 農家の負担減に

江面浩教授(生環系)と理化学研究所環境資源科学センターなどのグループは11月19日、受粉しなくても実がなる新しいトマトを開発したと発表した。現在特許を出願中で、新品種として実用化すれば栽培にかかる労力や費用を削減できると期待される。トマト栽培では通常、ハチに花粉を媒介させたり、ホルモン入りの薬剤を花に吹きかけることで実を作るが、これらの受粉作業にかかる労力は作業全体の約2割を占めている。研究者や農家は長年、受粉せずに実がなるトマトの品種開発を進めてきた。この技術の実用化を進めるという。

江面浩教授は「実が割れやすい、実が柔らかくなり過ぎてつぶれやすいといった難点があり、商品化には至らなかった。今回研究チームは実験用のトマトの遺伝子に突然変異を起して、約1万の異なる種類を作り出しその中から受粉せずに実がなるトマトを約10種類発見。これらのトマトは実が割れるなどの問題もなかった。原因となる遺伝子は特定済みで、今後は3年後をめどに実用化を進める他、なすやピーマンなどの作物にも応用する予定だ。

新燃料の実用化に 一歩前進

岩井講師ら研究グループ 稲のセルロース量増加に成功



セルロースを染色した細胞壁 左=一般的な稲、右=今回作製した稲

岩井宏暁講師(生環系)らは稲の特定の酵素を活性化させることで、環境に優しい新エネルギーとしてバイオエタノールの原料となる稲の葉や茎内のセルロース量を増やすことに成功した。今までコマなどの食糧からの生産が研究されているが、今回の成果は稲の茎から生産できるため、低コスト化などにつながる可能性がある。近年、地球温暖化や化石燃料資源の枯渇から、環境に優しい新エネルギー開発が急がれており、その一つとしてバイオエタノールの実用化に向けた研究・開発が行われている。その原料として注目を集めるのが、食用に適さない、稲の茎などに含まれるセルロースだ。バイオエタノールを作る際は、セルロースなどを構成される細胞壁を分解・発酵する。だがセルロースは

大蔵准教授が考案 「スクエアステップ」全国へ 転倒や認知症予防に効果



スクエアステップに取り組む高齢者

大蔵倫博准教授(体育系)が2000年に考案した、高齢者の転倒や認知症予防の運動「スクエアステップ」が全国各地の老人ホームで取り入れられるなど、普及

今後はこの稲が発育過程の病状や外部からの刺激などに耐えられるか研究していく。バイオエタノールを作り出すには多くの手間と大量のエネルギーが必要となる。これまでシロアリ関連の酵素などを使って、バイオエタノースを減らす試みもあったが、稲がうまく育たなかった。そこで今回岩井講師は稲の生育を妨げないように、稲の特定の酵素を活性化することで稲自身が持つ酵素を過剰に発生させたところ、茎などのヘミセルロースが50%減少した。今回の研究では稲自身の酵素を使い、ゆるやかに「稲に優しい」形で変化させたため、茎などのセルロース含有量が30%も増加。この際、稲の生育や可食部のコマにも影響はなかった。

スクエアステップは25センチ四方の正方形が縦4列、横10列並んだマットの上で行う。足の運びは、中央の縦2列を交互に踏んで前に進む単純なものから、横や後ろ、斜め方向に進む複雑なものまでさまざま。足腰が鍛えられて転倒を防げるだけでなく、足の運びのパターンができるようになるという。大蔵准教授は「指導員だけでなく一般のボランティアも増やし、全国の小中学校の校区にスクエアステップのサークルを作るのが目標」と語った。

第2回「哲学カフェ」

第2回筑波大学「哲学カフェ」が12月22日(日)14時から筑波大学東京キャンパスの文京校舎で行われる。当日は、津崎良典助教(人社系)ら人文社会科学研究所哲学・思想専攻の教員4人が講師を務め、参加者と「幸せとは何か」「死とは何か」などのテーマについて語り合う。なお、哲学カフェは毎月第4日曜日につくば市内または都内で開催されている。参加費は無料でメールでの申し込みが必要。先着20人。申し込みはtsukuba.tetsugakucate@gmail.com。詳細はhttp://www.tsukuba.ac.jp

アカペラサークルDooood

アカペラサークルDoooodのコンサート「Winter Live 2013」が12月28日(土)につくばカピオ(つくば市竹園)で開かれる。今回のテーマは「あたたかい冬の音色」で、邦楽や洋楽などさまざまなジャンルの曲を歌い上げる。17時30分開場、18時開演。チケットは前売り券500円、当日券600円で小学生以下は無料。当日受付で合言葉「たたいま」と言う。当日券も前売り価格で購入できる。問い合わせはdw.winterlive2013@gmail.com

反射鏡

人とつながる

「ぜいたく」

磯島諒(人文1年)

宿舎暮らしはなかなか「ぜいたく」なのではないかと思うことがある。狭い6畳の部屋、早朝に流れる無愛想なアナウンス、洗われていない食器でひどく散らかった捕食室……。

こうした側の側面はむしろある(そして何とかしてほしい、とも思う)。それでも、宿舎暮らしは「ぜいたく」だ。課題がよく分からなければ友達にすぐに聞きに行ける、気軽に飯を一緒に作ったり食べたりできる。夜になれば皆でお風呂へ行き、大きな湯船にたっぷり入りたい。これほど恵まれた生活は、なかなか得難いものだ。

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

結局一番「ぜいたく」なのは「人と人の関係」だと思ふ。人と人がつながる時に生まれる、ある種の温かさ。別に大したことじゃないけど、何かを互いに少しでも分かち合うことができれば、人と人はつながり、そのつながりが人をじんわり温めるのだ。そう考えると、宿舎暮らしは互いに分かち合うものをふんだんにみ出し、いける「ぜいたく」なものだと定義できるかもしれない。

隣人と寄り添い 共に生きる 泉沙也香(知識4年)

宿舎暮らしはなかなか「ぜいたく」なのではないかと思うことがある。狭い6畳の部屋、早朝に流れる無愛想なアナウンス、洗われていない食器でひどく散らかった捕食室……。

こうした側の側面はむしろある(そして何とかしてほしい、とも思う)。それでも、宿舎暮らしは「ぜいたく」だ。課題がよく分からなければ友達にすぐに聞きに行ける、気軽に飯を一緒に作ったり食べたりできる。夜になれば皆でお風呂へ行き、大きな湯船にたっぷり入りたい。これほど恵まれた生活は、なかなか得難いものだ。

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい



今月のテーマ 学生宿舎

宿舎で過ごしているとき、片言の日本語で「怖いですね」と言った。その後には特に会話も無く、二人で揺れが収まるのを待っていたのだが、その時間が私にとって何よりも安心して暮らす時間だった。その後も何

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つなぎ方を教えたり、洗濯に使う100円玉を両替してあげたり。補食室に行くとき、見たいものがないとどこかの国の料理が置いてあったりもする。名前も知らない人たちが、私と同じ空間で生きていく人たちだ。

そして、出会った住人たちは、出た人もいろいろある。宿舎で過ごしているとき、片言の日本語で「怖いですね」と言った。その後には特に会話も無く、二人で揺れが収まるのを待っていたのだが、その時間が私にとって何よりも安心して暮らす時間だった。その後も何

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

漫心した生活 見直して 島山あずみ(PN)

皆さんは、宿舎がどういうところなのかという実情について知らないのではないだろうか。無論、多くの人は1年生の時に学生宿舎に入居し、そこで1年を過ごしたであろう。狭苦しい住人たちが入ってくる。地震の怖さを共有した彼女も故郷へ帰っていく、その部屋に今は別の住人が住んでいる。けれど私は、いまだに地震の度に共有スペースに逃げ込んでしまう。そこ

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ロックも、時に人為的に開け放たれて無意味な状態にされていることもある。入居退去ならばともかく、開け放つ必要があるのか。絶対に安全とはいえない宿舎の廊下で、無防備に洗濯物を干して誰かが盗難に気づいたら、私の棟に気づいてくれる人がいるだろうか。一度宿舎に住む人に限らず、少し考えてみるべきではないだろうか。

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

自宅そばで事件多発地域の1つ、つくば市天久保3丁目を歩いた。夕方19時。商店がある通りには街灯が並んでいるが、角を曲がると、

暗闇の中を歩く筑波大の学生数人にインタビューを試みた。近づいて彼らに声をかけると、皆非常に驚いた様子で、恐る恐る取材に応じた。近くのアパートに住む女子学生は「帰宅の際は一人が多く、なるべく明るい道を通るようにしている。また男子学生はよくこの付近を通るが、夜は特に人通りが少なく危ない。(男性の)自分でも怖く感じるほどで、女性はおそろしい危ないと思う」と話した。

ここで浮かぶのは、誰に頼んだら街灯をつけてくれるのか、という素朴な疑問だ。取材つづきは市役所を訪れた本紙記者によると、各課からは色よい返答は無かったとい



新人記者 募集 中

TEL 026-853-6066 e-mail shinbun@un-tsukuba.ac.jp

原点 GEN-TEN

私は山梨県南部の田舎、南都町の出身である。西には南アルプスの南端が、少し山を登れば最近世界遺産に登録された富士山が見えるような所であった。海からは遠く離れた生粋の海無し県の出身である。小学生のころは、昆虫や山菜などを採ることに明け暮れていたが、とりわけ、水生の生き物は好きであった。小学生の夏休みの目標に「毎日川に行つて魚

「わくわく」を追いかけた日々 海へのあこがれを原点に

たし楽しかったので数学者になろうとも思った。要は明確な目標はなかった。医学部が無理、大学ではなぜか生物学に進み、そのまま大学院に進んだ。本当にやりたいこととは何なのか、分からなかったのが正直なところである。

こ下田から発信しようと思ふ。意気込んで移ってきたことを思い出す。大学院時代から岩手の大槌や宮城の女川には毎年訪れている。昨年からは琉球大学の客員教授として南の海にも潜った。日本の海の素晴らしさを実感する。生命は海から生

私の「原点」は、幼少時代からの「わくわく」してときめく経験と海へのあこがれだったのかも。最近、大学院時代に感動した「ほんまの構造をヒントに、生き物が多様化した「原点」を海に見いだしたい」と思っている。

いなは・かずお 生命環境系(生物科学専攻)教授。下田臨海実験センター長。東京大学大学院理学系研究科修了。東京大学助手、東北大学助教授を経て、2004年から現職。専門は分子細胞生物学、生殖生物学、海洋生物学。



稲葉一男

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

不審者を寄せつけない環境を



倉沢美紀

大学から自転車約10分のところに住んでいる。目と鼻の先、といえど、夜帰る時はいつも怖い思いをする。暗いのだ。友人と別れた後は、いつも「暗闇から突然不審者が出てきたら……」と気が気でない。



街灯をつくば

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

つづは中央署への取材によると筑波大学周辺では、暗い夜道で女子大生を狙った路上わいせつ事件が、昨年の同時期に比べて倍増した。街灯が欲しい。そう思い毎日を通りかかっている。

第30回 NHK 全国大学放送コンテスト THKが最優秀賞を受賞



賞状とトロフィーを手に優勝の喜びを分かち合う会員たち

全国の大学・短期大学の学生を対象とした「第30回 NHK全国大学放送コンテスト」の本戦が11月23-24日、京都フスニー(京都市中京区)で行われた。筑波大学からはTHK筑波放送協会が出場し、7部門中4部門で優勝。そのうち135団体から500を超

7部門中4部門で優勝果たす

秘密保護法案の行方は？



海後宗男

近年、情報通信技術の発達やネットワークの普及により、さまざまな情報を扱うことが容易になった反面、情報漏えいも同等なくらい簡単に。最近の情報漏えい

筑波時評

保障を考えれば、国家秘密などの保護に関する法律は当然必要である。秘密の漏えいに対する厳しい罰則は、欧米では当たり前のものであり、従来

「秘密」といっても何がどこまで秘密なのか、秘密のまま法案が通ってしまう」というように、国会審議の拙速さを批判している者が多い。

多くの作品が集まり、本戦ではそのうち51作品がしのぎを削った。THK筑波放送協会の作品は5部門で各1作品ノミネートされた。

つくばショートムービーコンペティション 高島さんがグランプリ受賞 全工程を一人で制作

さん(情報創成4年)の作品「REAL VALENTINE」がグランプリに輝いた。

公園が美術館に 國安教授の作品も



研究学園駅前公園に置かれた作品

この作品は筑波大学を舞台に、バレンタインデーにチョコレートをもらえず手投げ弾を手に暴走する男子学生と、それを止めようとする大学の特殊部隊との抗争を描いた約9分間のアクションコメディ。脚本から撮影、編集まですべての工程を高島さん一人の手がけ、独学で身につけたコンピュータグラフィックスの技術を使って派手な演出も試みた。

後半はつくば中央署の菅原英夫署長が講演し、始めに、オートロックマンションを狙って居住者が寝ている間に部屋に侵入する「忍び込み」の事例について説明。事件が多発していることから「誰でも犯罪に巻き込まれる可能性がある。自分の防犯意識を見直ししてほしい」と訴えた。



学生らが制作した「やぐら」と「かまど」

品が、「東京デザイナーズウィーク2013 ASI AWARDS」の学校作品展で準グランプリを受賞した。この作品展は、10月26日から11月4日まで明治神宮外苑の聖徳記念絵画館(東京都新宿区)前などで開催され、芸術を学ぶ国内外54校の学生が出席。筑波大は初出場で快挙を達成した。

紙上の至高なるもの 美術品 23点を展示 日本の現代美術に触れる

石井昭さん(株式会社書道流通センター取締役)が筑波大学に寄贈した美術品の数々「石井コレクション」の特集展示「紙上の至高なるもの」が11月12日から12月1日にかけて、大学会館アートスペースで開催された。



展示された「石井コレクション」

石井コレクションの研究に携わる寺門臨太郎准教授(芸術系)は、「石井コレクションは学外にも誇れる筑波大の財産だが、学生にあまり知られていないのが残念。展示を通じて、もっと多くの学生に広めたい」と話した。

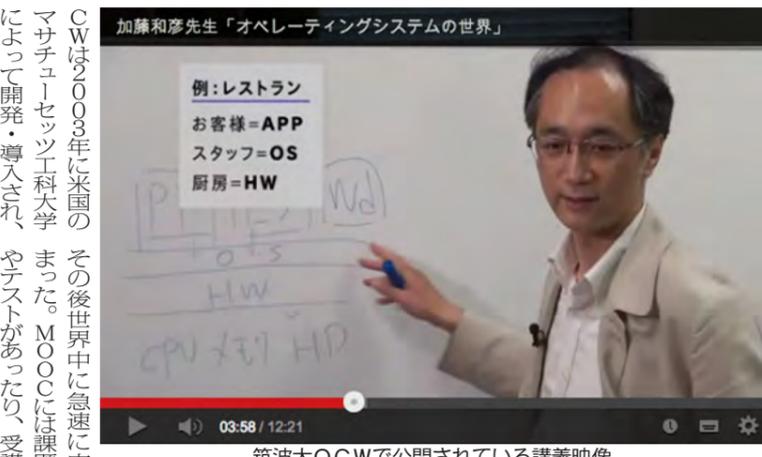
これから大学が 変わる? MOOC 特集

MOOC 導入は未定

筑波大ではOpen Courses (OCW) というシステムを使い、講義の様子を無料で配信している。OCWのサイトを開くと、コンピュータシステムの講義や永田泰介学長の講演などが見られる仕組みだ。

MOOCとは?

MOOCを直訳すると「大規模公開オンライン講座」となる。インターネットを通じて行われ、2012年からハーバード大学、スタンフォード大学など主に米国の有名大学で導入された。今年からはヨーロッパやアジアの主要大学も参加し、日本でも9



筑波大OCWで公開されている講義映像

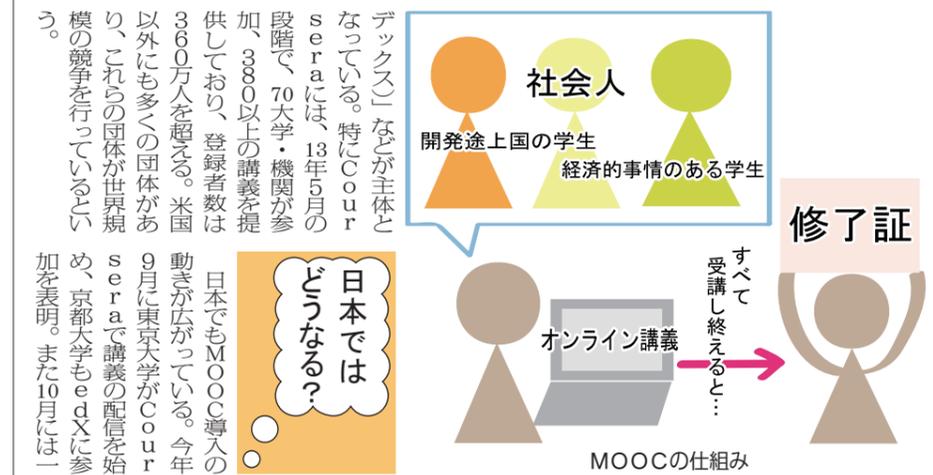
後修了証が発行されるのに対し、OCWはこのようなことは行わない。筑波大では、OCWをより多くの人に大学の講義に興味を持ってもらうための「窓口」としてとらえている。大学に行かずに実際の講義の様子が見られることを生かし、できるだけ多くの高校生や社会人にOCWの講義を見てもらうことで筑波大への志願者を増やすことも狙いの一つだ。筑波大は今年度改めてOCWの方針や体制を見直し、10月にサイトのリニューアルも行うなど、OCWの改善に力を入れている。そのため筑波大ではMOOCを導入するかどうかの見直しはまだ立っていない。

オンラインで無料受講

MOOCは、オンライン講義のため受講人数が限定されず、過去20万人近く受講した講義もある。講義は原則英語で行われ、利用者はインターネット上で定期的に配信される映像で学習を進めることになる。課題を提出したりテストを受けると、受講修了証をもらえる。米国では、基金を元に営利団体として活動する「Coursera」(コースセラ)や大学が資金を出し、非営利に行う「edX」(エ

東京大の取り組み

今年9月から日本で初めてMOOCの運用を本格的に開始した東京大学の取り組みについて調べた。東京大は「ビッグバンからタークエネルギーまで」(村山善博特任教授・物理学)と「戦争と平和の条件」(藤原一教授・政治学)の2講義を、Courseraを通して配信している。実際にインターネットで東京大の講義を見た。まずCourseraのサイトに接続し、「tokyo」



教授が英語で講義

一般に公開されているのは講義の導入部分だ。講義では教授自身が流ちょうに英語で説明。さまざまな映像と共に講義が進行し、テレビのドキュメンタリー番組のような迫力もある。4週間を完了するもので、すべての講義を受講すると修了証が発行される。東京大は受講者数を2講義合わせて数万人と予想している。JMOOCに参加する東京大は、「反転授業」に関する研究を始める予定だ。株式会社NTTドコモと共に

日本独自の仕組みも

日本でもMOOC導入の動きが広がっている。今年9月に東京大学がCourseraで講義の配信を始め、京都大学もedXに参加を表明。また10月には一般社団法人JMOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)が発足し、日本版MOOCを推進する体制が整えられた。主に米国の大学が運営しているMOOCでは、講義のほとんどが英語で行われるため、日本人が受講することは難しい。また講義を開講できる大学が各国のトップ校に限られており、東京大など一部の大学を除き、日本の多くの大学はMOOCに参加できなかった。そこで、より多くの大学の講義を日本語で受講できることを目指し、株式会社NTTドコモ、住友商事株式会社、富士通株式会社などの企業や大学が10月にJMOOCを設立。東京大、京都大、慶應義塾大学、早稲田大学など13大学が参加を表明も開講する予定だ。

視点

MOOCは世界中の講義を自宅で受講できる手軽さや、米国ではその修了証を就職活動に使えるなどの利便性で注目を集めている。世界最高級の講義を受けられるMOOCが将来、各大学の講義に取って代わる可能性は高い。だがその一方でMOOCは、大学が世界中の学生に講義の魅力を伝える手段ともなるため、当面は留学生を呼びよせる糸口にもなりそう。

MOOCの問題点

制作には膨大な労力や時間、資金が必要となり、150分の映像の場合打ち合わせや編集も合わせると、その5倍の時間が必要となる。その上、映像は情報が必要となる。大学での講義と違い、インターネット上に公開されるため、逸村教授は「著作権に関する手続は煩雑で、大きな問題だ」と指摘する。

筑波大にもMOOCを

MOOCにも解決すべき課題がある。米国では約20万人が受講する人気講義がある一方で、「あるオンライン講義を受講していた学生は、教室で講義を受講していた学生よりはるかに成績が悪く、途中で受講を取り消す学生も多かった」という報告もある。原因の一つとして、学生がMOOCの講義に興味を持ち続けられなかったことがあるという。受講者を飽きさせない講義を作っていく工夫がMOOCには必要だ。

大学の存在意義とは

逸村教授によると、MOOCには多くのコストがかかる。例えば講義の映像を配信しているが、将来的にどうなるか分らない」と話す。MOOCの講義は資料として使う新聞や本などは、著作権者の承諾を得ることが必要となる。大学での講義と違い、インターネット上に公開されるため、逸村教授は「著作権に関する手続は煩雑で、大きな問題だ」と指摘する。

MOOCが広まれば、大学での講義や大学そのものの意義が問われることになる。ゼミや研究などでは、対面授業を行うことが大切だという意見がある一方で、「概論のような基礎的な講義はMOOCで代用できる」「魅力の無い講義をするなら世界トップレベルの講義を受けられるMOOCの方が良い」という意見もある。逸村教授は、MOOC導入で「大学とは何か?」「キャンパスとは何か?」が問われ、教育が大きく変わるだろう」と話している。

波大学は一步遅れた状況にある。MOOCは筑波大の使うOCWより機能性が高く、世界の主流になりつつある。この状況が続けば、他大学のMOOCで人気の教員が講義を行った場合、当面、その大学に留学生が流れる可能性もある。筑波大でもMOOC導入を早急に検討するべきだが、①筑波大の最先端の研究を紹介する②研究学園都市という特徴を生かし高度な技術を持つ企業との共同講義を開講する……などで、筑波大の特色をアピールしていくべきだろう。(井口彩)社会学類1年



問題点について語る逸村教授

第13回全日本チャレンGボール大会

Gボールで演技を披露



「ルパン三世のテーマ」に合わせて演技する参加者

リズムカルに躍動する

人が上に乗ってさまざまな競技の全国大会「第13回全日本チャレンGボール大会」が11月23日、中央体育

大会は計測部門と演技部門に分かれており、計測部門ではGボールの上で跳ねたりバランスをとったりする技術を競う。演技部門では、二人一組で規定の演技を見せる「シンクロダンスGボール」と人数制限無しで自由に創作した演技を披露する「オープン演技」の2種目を行った。

Gボールユニット2013ルパン三世が優勝。リーダーの小林杏純さんは「笑顔を抑えたいので、優勝できてうれしい。本番の出来は90%くらいかな」とほかに言った。

ライフスタイルデザイン講義

四角さんが講演 自身の経験を語る

歌手の絢香などのプロデューサーとして活躍後、ニュージブラントに移住し、執筆活動も行う四角大輔さんの講演会「ジブラントのための『ライフスタイルデザイン講義』」が11月19日、3A棟202で行われた。

講演の最後には「Thank Different」というスローガンを掲げたアップルのCMを流し、「人は誰もが特別である」というメッセージを訴えた。

アーティスト。だから、自分らしさを大事にしてほしい」と締めくくった。会場からは大きな拍手が沸き起こり、しばらくの鳴りやまなかった。鮎川さんは「四角さんの熱いメッセージを通して、筑波大生に人生について考えてもらうことができ、良かった」と話した。

第37回秋季スポーツ・デーが11月16、17日に陸上競技場など学内20カ所の会場で行われた。2日間共、気温が17度前後とスポーツには絶好のコンディション。正式種目の伝では、参加者が陸上競技場からスタートし、追越舎付近で折り返して第一エリアまでたすきをつないだ。全19チームが参加した男子部門では、トリアスロン部の



駅伝で1位でゴールする山下さん

難民交流会

難民と意見を交換する

支援についての議論も

紛争や宗教上の理由で母国を出て、日本で生活している難民と交流するイベント「難民交流会」があなたの「一歩で世界が広がる」が11月30日にナバホールで開催された。

前半は、母国で生活できなかった人が難民になる過程や同団体の活動について劇を交えて解説。世界中で難民の数が増加していることや、同センターの生活環境の悪さを紹介した。

後半は参加者と収容者がディスカッションを行った。収容者の一人が「これ10人と現在の難民問題や難民支援の在り方について意見を交えた。」

本将太郎さんは「周りの人になって」と話すと、参加者から「収容者の生活水準を向上させるべき」「自分たちが収容所に行くと難民の人と話したい」となどの声が上がった。

「このイベントは、学生の自発的な活動を大学が支援する一つはアクションプラン」

筑波民名位!



難民の経験を聞く参加者

劇団筑波小劇場

劇団筑波小劇場は約30人が所属する演劇サークルで、年間4、7回の公演を学内外で行っている。公演の度に、舞台上立つ役者の他、劇全体を取りまとめる立場の演出、役者



「このね、僕トゲトゲしてるから。痛かったでしょ?」「いい、岩がしゃべった!」。教室に響く声に、通りがかった人は目を疑うかもしれない。もちろん、本物の岩がしゃべるはずがない。岩にふんしているのは劇団筑波小劇場の役者たちだ。



妥協を許さぬ役者魂

「このね、僕トゲトゲしてるから。痛かったでしょ?」「いい、岩がしゃべった!」。教室に響く声に、通りがかった人は目を疑うかもしれない。もちろん、本物の岩がしゃべるはずがない。岩にふんしているのは劇団筑波小劇場の役者たちだ。

「このね、僕トゲトゲしてるから。痛かったでしょ?」「いい、岩がしゃべった!」。教室に響く声に、通りがかった人は目を疑うかもしれない。もちろん、本物の岩がしゃべるはずがない。岩にふんしているのは劇団筑波小劇場の役者たちだ。

「このね、僕トゲトゲしてるから。痛かったでしょ?」「いい、岩がしゃべった!」。教室に響く声に、通りがかった人は目を疑うかもしれない。もちろん、本物の岩がしゃべるはずがない。岩にふんしているのは劇団筑波小劇場の役者たちだ。

「このね、僕トゲトゲしてるから。痛かったでしょ?」「いい、岩がしゃべった!」。教室に響く声に、通りがかった人は目を疑うかもしれない。もちろん、本物の岩がしゃべるはずがない。岩にふんしているのは劇団筑波小劇場の役者たちだ。

Who's Who?

「TSUKUBAN BEAUTY 2011」で女装して優勝

五十嵐大悟さん (人文4年)



特製の電飾ドレスを着た五十嵐さん

2年前、第37回学園祭開催された筑波大学の「TSUKUBAN BEAUTY 2011」に女装して出場し、女子学生を抑えて優勝を果たした男子学生がいた。女装時には「あしやまひろこ」を名乗る五十嵐大悟さん(人文4年)だ。現在は、栃木県足利市のアニメ風のキャラクターを使った「まぢおこし」に関する研究を行っている他、就職活動の最終面接に女装姿で臨

み内定を決めるなど、多岐にわたった活動を行っている。高校生のころは文芸部や美術部、化学部など同時に7つの部活動を兼部。興味関心は広がったが、特に機械が好きで、幼いころはエンジン車になったり「文化祭にメイド服姿で参加する」など本格的ではないが女装を趣味として楽しんでいたという。筑波大では文系の

自らアイデアを出した「電飾ドレス」は電気工学や洋裁に長けた友人などと共同制作したもの。優勝を後押ししたのは五十嵐さんの熱意と、仲間の協力だった。「友人の支え無しでは優勝は不可能だった」。筑波大には好きなことをやっても周りに馬鹿にされない校風があり「自分の趣味に打ち込みやすかった」と話す。女装は就職活動でも生かされた。ある大手企業の「余人を持って代えがたい人材」を募集する求人枠に応募。最

「女装は自己アピールの手段」 宗教学生かしたもののづくりも

終面接で、電飾ドレスを着て女装姿を披露した。服装のインパクトもさることながら、プレゼンテーション課題の説得力や論理性が評価され、内定を獲得した。「もはや女装は自分をアピールする手段になった」と苦笑する。五十嵐さんの活動は女装にとどまらない。大学2年生からは専攻の宗教学に専念して、栃木県足利市の神社の神様をモチーフにしたキャラクターを使った「まぢおこし」の事例を研究。聴き取り調査やアンケート分析を行った他、石川県金沢市などの事例も現地調査した。調査結果を研究会で発表し、それを基にした論文は昨年12月に学術雑誌に掲載された。「東京だけでなく、地方ももっと盛り上げたい」と現在も卒業論文に向け研究を重ねている。

ものづくりに関しては、今年11月の学園祭で2次元のキャラクター「初音ミク」のシルエットを、直方体の透明で平らなケースの中に煙を充填させた自作のスクリーンに映し出し、立体感を与えることで実際にキャラクターが存在するように見える装置を開発し、展示した。これは「光と神秘性」といった宗教学の知見や、これまでのものづくりの経験が生かされていると語る。また、女装時に身に付ける胸パッドを他の人に触られた際に、非女装時にも研究。今年4月に、気鋭の学者や民間の研究者が参加する「ニコニコ学会β」というイベントで成果を発表し、特別賞の一つである「座長賞」を受賞した。それを発展させ、脳波を使った研究内容を、自ら企画・編集した「女装と思想」という同人誌で発表するなど、研究に終わりはない。

性別や学問領域を超えてさまざまなことに挑戦する五十嵐さん。「女装の聖地」筑波大に新たな女装の星が出てきてくれれば」と期待するが、彼を超える強かな才能を持つ女装男子は当分現れそうにない。(平嶋健人 社会学類2年)

編集後記

この号を最後に3年生は引退します。活動を支えて下さった広報室の方々、厳しくも熱い指導が魅力の編集代表の先生、そしてそれぞれの強みを全力で発揮し、新聞を作り上げた部員たち……。多くの人の支えがあり、無事に新聞を発行できました。ありがとうございました。今号からキャンペーン「つくばに街灯を」を開始します。(編集長・原啓一郎 社会学類3年)

次号は

1月27日(月)

発行予定です

創造的復興プロジェクト



復興支援のイベントで実際に作ったれんがの「かまど」

4面へ

全日本ラート競技選手権大会



全種目で優勝した高橋の演技

6面へ

関東大学サッカーリーグ



ドリブルで敵陣に切り込む曾山

6面へ

全日本ちゃれんGボール大会



「Gボール」を使った演技を披露した参加者

7面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活